

災害医療テキストブック ー災害医療を中学生にも 考えてもらいたので 作りましたー 第2部 (暫定版、平成17年度)

国立病院機構災害医療センター

原口義座、友保洋三、西 法正

これは、災害医療テキストブックー災害医療ー大学生版を書き直したものです。

平成17年6月

All rights reserved.

一きみたちも、海の事故を少し考えてみようー 原口義座

はじめに

災害と災害医療の話のつづきですが、ちょっと方向を変えて、海でのお話です。

君たちも、きっと海は大好きだと思います。海水浴もいいし、海の景色をみるだけでも特をした感じもしますし、釣りの好きな人もいるでしょうし、船旅・ヨット遊びも楽しそうですね。そうそう、おいしい海の食べ物も絶対忘れられないし、・・・。

でも怖いことももちろんあります。ここは、その代表の船の大事故を考えてみましょう。大昔から、大きな船の事故がたくさんあります。

少し前の船の事故としては、ハワイ沖での潜水艦と日本の練習船との事故は、覚えていますか。かわいそうなできごとでした。

また、映画をご覧になったかたもいると思いますが、有名なものは、「タイタニック号と氷山の衝突」があります。おじいちゃん、おばあちゃんは知っていると思います。日本でも、「トウヤマル：洞爺丸沈没」事件があります。

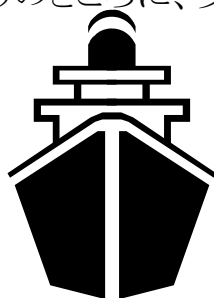
洞爺丸という船は、青函連絡船の一つです。青函連絡船は、津軽海峡という海を、函館市と青森市(青森県の県庁所在地であることは知ってますよね)の間をつないでいました。今風にいうと、フェリーですが、当時は、大きな船、客船でした・・・私も、学生時代、もう40年以上前ですが、乗ったことがあります。

この洞爺丸は、おり悪く1954年9月26日、台風15号で、沈没してしまいました。

大量1155名もの方が死亡し日本最大の海難事故となったとされています(広辞苑より)。

現在、青函トンネルができ、事故のイメージが変わっていることと思いますが、石川さゆりの演歌「上野発の夜行列車・・・わたしもひとり連絡船に乗り・・・(津軽海峡冬景色：阿久 悠、作詞、三木たかし、作曲)」で歌われているので思い出して下さい。

この部分の終わりのところに、少しお話を加えました。そこまでは、ぜひ読んでください。



もしかすると、「ポセイドンアドベンチャー」というずいぶん古い映画をみたひとはいませんか。たぶんテレビででしょうが。これでは、確か大晦日から正月にかけて、大地震・大津波で、船がひっくり返るという惨劇を扱っています。助かりたいと思う気持ち、人間が人間を助けるために努力すること・力を出し合うこと、人間模様等、複雑な情景を取り扱っていた映画です。

このこのように、海・水は、今までも、そしてこれからも多くの人命を奪う可能性のある、大事故・災害の大きな原因の一つです。

一きみたちも、海の事故を少し考えてみようー 原口義座

はじめに 続き1

このこのように、海・水は、今までも、そしてこれからも、もし油断すると多くの人命を奪う可能性のある、大事故・災害の大きな原因の一つです。

一方現在は、飛行機事故が特に目立ちます。

現在(平成17年春)まもなく日航機の御巣鷹山(おすたかやま)への墜落事故20周年を迎えようとしています(1985年8月12日に発生し、500名以上が死亡)。



また、今年2005年の春には、100名以上が亡くなられた尼崎の列車事故災害もおきましたし、その他、バスの転落事故などでも多くの方が亡くなられたことがあります。

暗い話が続きますが、でもここでは海・水と搬送機関としての船との関係から、みなさんも、人命の大事さ、災害への備え、そして命を助ける医療の役割を、考えてもらいたいと思います。

ここでは、幾つかの本・物語から、そして少しは写真の記録等から船での事故・災害をみてみましょう。

もっとも、三つ目は、本物の災害をあつかったものではありませんが・・・物語として面白いですし。

参考にさせてもらったのは、以下です。

1. ロベール・ド・ラ・クロワ、竹内廸也(ミチヤ)・訳:海洋奇譚集(キタンシュウ と読みます)。 文光堂:東京、2004
2. 平川陽一:タイタニック伝説。廣済堂文庫:東京、1999
3. シェイクスピア、福田こう存、訳:ヴェニス商人 変、平成16年72刷
4. 森松邦人:損害保険業界。産業界シリーズNo.63 教育社:東京、1991(1992第2版)
5. 田中 正午:青函連絡船 洞爺丸転覆の謎。 交通ブックス211 成山堂:東京、平成13年改定2版
- 6.



一きみたちも、海の事故を少し考えてみようー 原口義座

はじめに 続き2

さあ、災害と災害医療、

そして海の話へ進みましょう。

お話は、以下のテーマを扱ってます。

1. 船の事故を大きく考えると。
 - 1)船の遭難事故、 2)船の中での病気、3)それ以外もあります
2. 海での災害にまつわる不思議な出来事:ロベール・ド・ラ・クロワの海洋奇譚集より
3. タイタニック伝説 The Titanic
4. シェイクスピア、福田こう存、訳:ヴェニスの人、のお話です
5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風

そして、最後のまとめです。

一きみたちも、海の事故を少し考えてみようー 原口義座

さあ、災害と災害医療、そして海の話へ進みましょう。

1. 船の事故を大きく考えよう

船での問題、もちろん災害・事故がらみでみましょう。

なぜ、どうして起きたかと考えると、その発生の理由・原因別に幾つかに分けられそうです。主なものを分けて考えましょう。

1)船の遭難事故:怖い自然の脅威・つまり自然災害が代表でしょう、

なんといっても目立つのは、嵐・もちろん船の難破・破壊による災害です・・・特に、嵐・大風によるもので、マストなどが、壊れてしまったあとですと、船は自由がききません。漂流しますね。

あるいは、岩場などに乗り上げでもどうしようもないですよ。

嵐だったりしますと、なかなか助かりにくそうです。

ずっと昔、和歌山県の沖で、トルコの船が座礁・難破して多くの人々が死にました。しかし、地域の人々が、つまり和歌山県の漁村の人々が、多くの人を助け出しました。

その結果、トルコの国からも感謝されて、今も日本とトルコの仲がとてもよい大きな理由の一つとされています。知っていましたか？

2)船の中での病気

次の二つ目は、船の中で、危険な感染症がはやることがあります。・・・例えば、黄熱がはやった時でしょう。ビタミン・栄養不足で、体力・抵抗力が落ちたときは特に危険です。

特に、医学の発達前、19世紀には危険性が高かったです。

黄熱は、アフリカで野口英世先生が1928年になくなられた怖い病気です。

昔は、コレラ・赤痢など、船で世界中に広がりました。

でも、今でも油断はできません。船が運搬する可能性のある怖い病気はいっぱいあります。もっとも、飛行機で運ばれることの方がもっと多いでしょうが・・・SARSが広がったのは、飛行機によります。東南アジア、カナダなどに。

つまり、海の事故は、人命救助・急性期の治療他の、怖い感染症の病気、健康管理にも、直接関係します。

3)船の衝突と海賊:三つ目は、船同士の衝突でしょう。海賊も含めて、人間同士の活動が原因、つまり人為災害と言いますが、その面が強いでしょう。 4)その他、まだまだありそうですが・・・次に進みます。

2. 海での災害にまつわる不思議な出来事

ロベール・ド・ラ・クロワ、竹内廸也・訳:海洋奇譚集(キタンシュウと読みます)より

これには、船の事故・災害の怖い話が、幾つもでてきます。

「死者が船を追う時」など、船で亡くなった人を、海に葬ったあと、その「死体」と思われるものに、船が追っかけられた・・・というような話もできてきますが、

ここでは、一応、「災害医療」を科学として考えていますので、余り科学的でなさそうなものは、省きます。

この本から、一つ、二つの災害の“へんてこな”物語(現実にあった話らしいですが、若干、脚色されているかもしれません)を紹介しよう。

(1)「漂流船の出会い」p.9-45

1884年の海の上での、二つの船に起こった不幸な出来事／災害に襲われた、二つの船の実に不思議な出会いが記載されている。

ひとつの船は、暴風雨でマストの折れたドイツの船で、つまり全く操縦ができなくなって太平洋をただようこととなった。どうしようもない状態です。

海水が、船底を水浸しにし、沈没直前、食糧もつきかけていた。

もう一つの不幸な船は、船の乗組員が、伝染病・黄熱に襲われた。

船長以下、主な船員のほとんどが熱病・黄熱で死亡した。残ったのは僅かに3人で、しかも、船を動かす能力・技術のないものたちでした。

こんな状態で、しかも病気にかかり、消耗していた。

この二つの放浪している船は、ほっておけば、全員死ぬことになったであろう。

だが、広い大西洋でたまたま出会うこととなった。出会ったときは、天候も良かったようである。

しかし、お互いのふらふらになった、困った乗組員が、相手の船を見つけて、遠くからみて「助けてもらえるのではないかと・・・助けてくれ」と、どっちも希望を持っても、船は自由にならない。

ふらつくばかりでなかなか合体できない。

苦労に、苦労を重ねて、なんとか沈没しそうな壊れた船の乗組員が、病気船の方へ、乗り移った。

そして、壊れた船の乗組員が、船を操縦して、無事に(多くの船員の犠牲をだしたとはいえ)アメリカの港に帰れたという。

この二艘の船がであわなければ、両船の乗組員とも死んだろうし、あるいは天気が悪くて、風雨があれた時なら最悪の局面としては、漂流船として、他の船に衝突していたかもしれない。幽霊船にぶつかりかけたという経験のある船のことも述べられている(p.44)。

ここでは、ハッピーエンドとなったが、こんな可能性は、それこそ万に一つ、でしょう。

1. 海での災害にまつわる不思議な出来事

(2) その2 病気など

もう一つ、この本から紹介しよう。「病気が舵をとった時(p.81-103)」では、こう述べている。

「船の敵は、暴風雨、火災、岩礁、浸水だけではない。病気も敵のひとつだ。

・・・乗組員たちを一人ずつ襲っていく。

・・・黄熱病や、・・・熱帯病、またビタミン類の不足から起こる壊血病、脚気(かっけ)などがある。

・・・衛生不良から、このような病気にかかりやすく、・・・」と書いている。

まだ医学知識の不足していた、1800年代は多発したようである。

現在は、ずいぶん健康に関する知識も広まったとはいえ、やはり、このようなことも知っておくことは必要だろう。

これを現在に置き換えると・・・一人暮らしの高齢者が、蒸し暑い自宅で、食事也十分にとっていないと・・・ 同じ様な危険性が考えられます。

1～2年前の2003年頃ですかね、ヨーロッパで、夏がものすごく暑くて(いわゆる熱波です)多くの方が亡くなられたことを思い出して下さい。

パリ・フランス国内で亡くなられたが特にひどかったようですが、ヨーロッパは、南の地中海沿いは別として、余り冷房が普及していないようです。

著者(原口義座)の経験ですが、数年前、ドイツのフランクフルトの最高級のホテルにある夏に泊まったところ、冷房がなくて(ききが悪いのではなく、クーラーがないのです)、一晩うんうんうなって眠れなかったことがあります。

ホテルの壁には、高級そうな絵がずら一つと並んでいましたし、廊下はすてきな絨毯が敷き詰めてあって、ドイツの様子に詳しいひとの話では、「高級ホテル」によく泊まりましたね・・・とうらやましがられたのですが。

1. 海での災害にまつわる不思議な出来事

(3) まとめると

大分、お話がずれたので、もどして、まとめます。

このように海での災害を考えると、

遭難しないように準備をしておくこと、

そして、起きたら、す早く救助すること、がもちろん、まず大事ですが、

ここでの(つまり私たちの)主なテーマの医療面でみると、

海難事故・災害では、いかに上手に

(1)けが・急性外傷へ治療できるか、

(2)感染症・栄養不良防止への対策はどうか、が主役になります。

しかし、その他にも、

(3)慢性の病気を有する乗客への応援

(4)災害弱者等も想定した医療、が必要であることもわかつてきます。

これらのことも、後の方ででてきます。

また、この本には、その他、海賊も、話にでてきます。つい東南アジアの方で、最近、2004年頃もありましたね。

もう一つ、この本で教わった最後に少し気に入った言葉を・・・。

この本では、「ギリシャの哲学者アナカルシスは、[世の中には三種類の人間がいる。生者、死者、それに航海者である]と書いた」と言っている(p.245)。

これは海は、大層、神秘的であることをあらわしているそうである。

これを災害医療にもあてはめて、私は、

[世の中には三種類の人間がいる。生者、死者、それに災害(医療)救援者である]

と言いたいと思いますが・・・

皆さんはどう考えますか？救援者として、役立ちたいと思いませんか？

災害には、恐怖と畏敬の念をもって、つまり軽くみてはいけません・・・でも、もし災害にぶつかることがあったとしたら、ひるまずに、冷静に、がんばりましょう

3. タイタニック伝説 The Titanic

次は、タイタニック号です。平川陽一:タイタニック伝説。廣済堂文庫:東京、1999からよく知っている人は、とばして後半へ進んで下さい。

[前半:タイタニック号の紹介]

タイタニック号は、イギリスの巨大な旅客船です。

4万6千トン強、

1912年4月14日、北大西洋を処女航海中に

冰山に激突しました。すぐに沈没、

被災者:死者1500名余(1502名?)、生存725名とされる((p.4 etc)、

海難事故として世界最大で、最も有名なできごとである。その結果、何度も映画化されるなど、世界で最も知られている。

[後半]

災害への考え方から少し、私なりに、掘り下げてみました(平川氏の分析を参考にさせていただきました)。

前述の本によると、多数の犠牲者が発生した理由がそれとなく?わかる。

これを述べることから始めましょう。

①災害への準備不足・概要

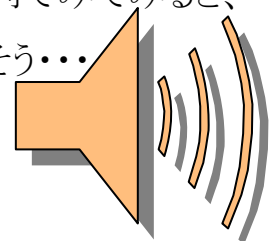
大きな被害・多くの人がなくなられた理由の第一はもちろん全体的にみて基本的な災害への準備体制の不十分なことです。

これを少し細かく分析すると、いろいろ指摘できます。

例えば、タイタニック号は不沈艦(絶対に沈まない船)として銘打っていたそうですが、災害予防・対策の基本に関しても、最初からの問題も含めて、時系列でみると、

- 1)大事な防水壁・隔壁が不完全であった、→不沈艦とはいえなさそう・・・
- 2)見張り体制が不十分、→事故を起こしやすい状態
- 3)救命ボートが不足していた、→全員は最初から助からない?
- 4)発生後に船内の情報が混乱した、→パニックになりかねない
- 5)救助依頼の無線がうまく機能しなかった、→ 応援が期待しにくい

ことなど、がまず、あったようです。



2. タイタニック伝説 The Titanic

[後半]

①災害への準備不足・体制不備の概要は、のべました

②さらに、これでは、死者も増えそうな理由

それ以外にもこの本に、書かれていることには、若干背筋が寒くなることも含まれる。

○例えば、脱出ルートである。

衝突して沈没する船から逃げ出すには、当然、船室の中から上の甲板・デッキに上がらねばならない。そこから、始めて救命ボートに乗れることとなる。

船室も、上等なクラスの所から、上の階、つまり逃げやすくなっている。

ということは、逆に考えると安いクラスの二等・三等船室は、船の下の深い所にある、つまり逃げ出すのに一番遠いところということになる。

実際、タイタニッククラスとなると7階(7層)建てになっていて、その内の下の2層が、二等・三等船室になっていたそうです。

しかも上の階に行くには、鍵がかかっていたいけないシステムになっていた。つまり、安いクラスの船客が勝手に、上のクラスのところに行ってはいけないということです。

また、非常時になった時の連絡の順番にも、差をつけられていたようです。二等・三等への非常連絡が遅れたとのことで、これでは脱出する際に、二重三重に不利であった。

この本によると大変複雑なコースが書かれている。

つまり、三等船客は、三等ラウンジ→船尾デッキを通り→二等の図書館を抜けて→一等区域に入り→ここから医務室と→一等船客の使用人用のダイニングサロンを通る廊下→を歩いて、最後に大階段を通して→ボートデッキへ出る(p.120)という、とんでもない「迷路」のコースとなったということである。

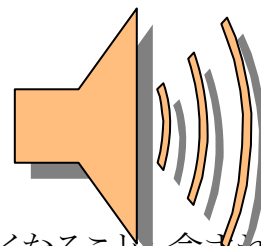
○アメリカの移民法

もっとも、「アメリカの移民法」にも少しは、責任がありそうです。

つまり、「アメリカの移民法」では病気の感染(が一番下のレベルの船客から)拡大することを恐れて、三等船室の乗客は、他の船客から隔離するように規定されていたということでもあるが(p.117-118)。→今風で言うと、災害弱者切り捨てともいえそう。

○また、「女性とこども」優先という、ことは一応なされたようである。

これにも、それなりの課題が残されることは、避けられないことであろうが、欧米なりのマナーが機能したといえるかもしれない。これは、次を読んでほしい。



2. タイタニック伝説 The Titanic

[後半] 一部、文章重複、

①災害への準備不足

②これでは、死者も増えそうな理由

また、「女性とこども」優先という、ことなされたようである。

これにも、それなりの課題が残されることは、避けられないことであろうが、欧米なりのマナーが機能したといえるかもしれない。

課題としては、例えば、10歳の少年は、ボートにのせ、13歳の少年は、「男性」ということで断られたとされる(p.153)。

また「新婚夫婦」は、一緒に載せる(p.144)こともしたようである。

簡単によい・わるいを割り切ることはできないでしょうが、いろいろ考えさせられることは多いですね・・・

がらがらの救命ボートもあった(p.140)とされるが、これも上記の優先順位を厳密に従ったためかもしれない。

実は、これは現在でも同様な難問であることは、「新潟県中越地震」でも経験したことは、他の巻(第14巻、他)でわかると思う。

いずれにしても、災害時の避難ルートを前もって考えておくことは、大切です。

運営する側もちろんですが、皆さんも必ず頭においておいてください。

全ての乗り物、飛行機から、列車・地下鉄から、あるいはホテル・旅館からでもですよ。

次には、生存率から、クラス別と「女性とこども」優先、特に女性優先の話をしましょう。

2. タイタニック伝説 Titanic

③生存率からみてみます

話を元に戻すと、生存率、つまりどの程度の方々が亡くなり、助かったかです。

助かった率、生存率に、前のところで述べた、クラス別の違いと男女差がはっきりでているようです

	一等	二等	三等	
男性:女性	33%:97%	8%:86%	16%:46%	と記載されている。

クラス毎の死亡率もさることながら、男女差に目がいきます。

一等船室の女性は、ほとんど助かったと言えそうです。二等の男性は、全滅ですね。

当時は、特に英国の紳士は、「死を恐れない・・・」という文化、「女性を大切にする・・・」という文化があって、これが、男女差の違いにつながったのであろうことも、印象的です。これが、現代にそのままあてはまるか??とは思いますが、私は、・・・自らの命を捨てないまでも、苦しんでいる人には援助するという・・・ボランテイア精神・・・につながるものではないかと思えます。

皆さんは、いかが感じますか?

④その他の問題点とまとめです。

○問題点として、訓練の問題、救命ボート訓練が一度もなれていなかったそうです。

これでは、訓練不足も、生存率に関与したでしょうし、また、大西洋横断のスピード新記録をねらうという、名誉と商売上の競争もあったことも、災害を起こした遠因としてあげられるかもしれません。

これと、現在、たたかれている尼崎の列車事故での運営の方針とを簡単に重ねて考えることはよくないかもしれませんが。

○なお、救命ボートが乗員・乗組員全員分準備することが義務づけられたのは、タイタニック号悲劇以降とのことで、本書の著者は、タイタニック号がこの世に貢献した数少ない一つであると、この本では、・・・皮肉を込めて?のべている(p.78)。

○また、この本の著者が、評価・賞賛しているのは、乗組員の姿勢と活動である。

892人の乗組員の内、救助されたのは、214人、四分の三は、死んだが、最後までよくがんばったとされる。(医療従事者は、医師8名、看護婦1人とされその生死は不明である)。また、乗組員でも、最後は、しっかり自分の安全を優先してもかまわない、と法律上もなっているとのことである(p.193)。

○私たちも、もし災害救援する際には、自らの安全を守って活動することも大事ですよ。

○救助信号は、SOSを発した最初の船であるとされていたが、十分な救助は得られなかったとのこと問題なようである。

次回は、3. シェイクスピア、福田こう存、訳:ヴェニスの商人、です。

4. シェイクスピア、福田こう存、訳:ヴェニスの商人、

ここで、なぜ「ヴェニスの商人」がでてきたか、おわかりですか？

そうです。船の難破が、主題の一つになっているからです。

でも、余りそれには、こだわらず、目を通して下さい。

あらすじは、こうですよ。

「ヴェニスの商人」アントーニオーが、

友人の「バサーニオー」の結婚をバックアップするために、つまり結婚資金のために、ユダヤ人の金貸しの「シャイロック」から、大金(?)を借ります。

その借金のかた(抵当、担保)に、体のどこでもよいとして「一ポンドの肉」をとれるという内容の証文をとられます。

アントーニオーは、さんざん「ユダヤ人」の悪口をいっているのに、借金をするはめになったのですが、「アントーニオー」は、自分の何隻もある船が帰ってくれば、楽に借金を返せたはずですが、・・・そうは簡単にいきません・・・

どうも難破したらしくて、期日までに帰って来れないことになって、期日までに借金を返せなくなります。

ここに、大きな悲劇(喜劇)が起こる。

そして、「アントーニオー」は、ほとんど命を落としかねない状況となります・・・が、裁判所で、有名な判決を受けます。

つまり、判決は、こうです・・・

①最初に、シャイロックが、アントーニオーの体の「一ポンドの肉」をとることは、よい

→ここで、シャイロックが裁判官をほめます、

②・・・が、次に、裁判官は述べます。 「一滴の血も出してはならない」し、また

「ぴったり(かっさり)一ポンドでなければならない」

「もしこれを破ったら、シャイロックは犯罪者となる」 ということから、

アントーニオーは、命が助かります

→今度は、アントーニオーの友人側が裁判官をほめる。

・・・つまり、ある人(実はバサーニオーの婚約者)の機転でアントーニオーは助かり、

「ユダヤの金貸し」は、罰を受ける・・・という、めでたし、めでたしの、有名な話です。

遅れて、人騒がせな船も、ひょっこり、無事に帰着いたようです。

私、個人としては、余りよくできた小説とは思いませんが、まあいいことにしましょう。劇として、開催すれば、成功間違いなしのものだそうですし。シェークスピアの代表作でしょう。

なお、もし、全文をお読みになっておられればご存じと思いますが、ここでは、いろいろな他の話もかみ合わさっています。

例えば、

- ①婿選びのための金・銀・鉛の箱選び、
- ②ユダヤ人(シャイロックの娘)とキリスト教徒との愛・駆け落ち、
- ③指輪の紛失、
- ④女性の男装での活躍、
- ⑤独特な(少しへんてこな)司法制度の問題
- ⑥ユダヤ教徒を無理矢理、キリスト教徒に改宗??、もあるようです。

でも、私の主観に戻りますが、「災害医療」を考えると、ここで露骨にでてくる「ユダヤ人に対する偏見」は、かなり露骨に書かれています。

どうも余り感心しませんと思いますが、どうでしょうか? 当時は、このようなふうであつたのでしょうかね。

逆に、「ユダヤ人」が、主役になっている(悪役としてですが、シェークスピアのものも含めて「悪役」が主人公の小説も少なくはないですよ)という考えもあるようです。

そういう意味では、シャイロックの役をする俳優のことを、「うらやましい」と思うひともいるかもしれませんが。君だったら、どの役をやってみたいと思いますか?

また、視点を変えて、冷静に考えてみます。つまり「災害」の話に戻りますと、第9巻でも少し述べましたが、どうもこの時代には、既に「船舶保険」ができあがっていたようです。

もし、保険に入っていれば、「肉とりあいの裁判」は避けられたのかな?とも思いますが。

Shakespeareが、「船舶保険」のことを知らなかったのか、あるいは、「アントーニオ」は、保険嫌いだったのか? というようなことだそうです。この辺は「森松邦人: 損害保険業界。産業界シリーズNo.638 教育社:東京、1991(1992第2版117-118)」に書いてあります。

それでは、物語としては、面白くないでしょうが……ぜひ、でも、「ベニスの商人」をみにいきましょう。あるいは、読んでみましょう。

5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風

もう既に、はじめのところで少しお話した洞爺丸台風と洞爺丸沈没について、私なりの見方で、つまり災害時にはいかに、人を助けるか、そのためにはどうすべきかを、医療の側から、お話します。

(1)この大災害の全体像

簡単に、この災害の全体像をお示しします。ここは、大部分は、はじめのところとほとんど同じですので、飛ばして、その後に進んでもよいですよ。

昭和29年9月、台風15号が、東北地方から、北海道にかけて襲いました。

襲われた場所は、津軽海峡という海峡です。ここには、青函連絡船と呼ばれる連絡船が、数隻で函館市と青森市(青森県の県庁所在地)の間をつないでいました。

台風は、気圧も956ミリバール(ヘクトパスカル)と強い低気圧であった。

そして、この台風15号で、1954年9月26日洞爺丸と他の数隻(第十一青函丸、日高丸、十勝丸、北見丸等だそうです)は、沈没してしまいました。

洞爺丸という船が青函連絡船の一つで最大の被害者をだしました。洞爺丸沈没は、真夜中近く(11時前)でした。その結果、大量1155名の方が死亡し日本最大の海難事故となったとされています(広辞苑より:乗組員を含めて)。

別の報告(田中 正午:青函連絡船 洞爺丸転覆の謎。交通ブックス211 成山堂:東京、平成13年改定2版)では、乗客1151名の内、助かった者は110名としている。

他の連絡船の遭難を含めると乗っていた1632名中、生存した人は僅か202名ということです。つまり、1430名がなくなったということです(田中 正午:青函連絡船 洞爺丸転覆の謎。交通ブックス211 成山堂:東京、平成13年改定2版)。

それにしても、洞爺丸での死者が8割位とほとんどです。

なお、この亡くなられた方の正確な数は、決めることはしばしば困難です。ニューヨークの同時爆発テロからもう4年経ちますが、まだはっきりしないところがあるのと同じで、どうしても避けられないことです。

洞爺丸も沈没を避けるように大変努力をしたのですが、砂にのりあげて、一旦は落ち着いたあと、一気に転覆してしまったのである。

その場所は、函館湾の中、函館港からそう遠くない場所、七重浜(函館駅から、現在二つ目の駅)という海岸、その沖合、700メートルのところでした。

この悲劇の大きかったこと、残念だったことは、亡くなられた人の数も多かったことありますが、他にももう少し、救援が、そして医療が準備されていれば、助かった人が多数あったかもしれないということです。

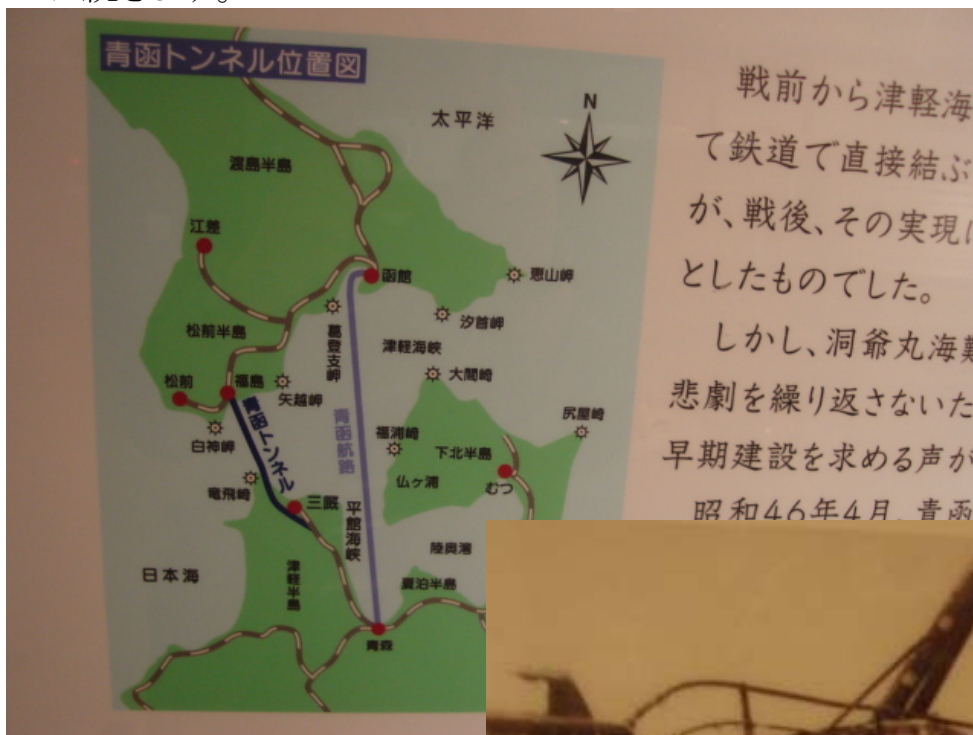
5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風: 続き

(2) 船中での医療と医者

沈没の前にも、船が大揺れになって、けがをした人が多数でました。吹き飛んだガラスで顔が切れて血がふきだした女性がいたそうです。医者を捜したところ、船の中にも、医者はいたのですが、この医者もけがをしていて、けが人をみれる状態ではなかったのです。

やはり、最小限の処置、ここでは、「ふきだしている血を止める」そのための処置(止血処置といいます)と包帯で圧迫して押さえておくことは、みんなできなくてきはいけないことがわかったと思います。

さて、せっかく、救援にいったのに、残念だと後悔した土地の人の話に続きます。



転覆した洞爺丸
函館市の青函連絡船記念の摩周丸での写真から

2006/4/5



(3)せっかく、救援にいったのに、残念だと後悔した土地の人の話

(田中 正午:青函連絡船 洞爺丸転覆の謎。交通ブックス211 成山堂:東京、平成13年改定2版:95ー96)

今から振り返ってみて、大変後悔されるお話をします。実は、この洞爺丸沈没を書いた理由は、ここにあるからです。

まず、大変胸をうつ、そして胸を痛まされる内容です。上記の参考にさせていただいた文章の抜粋を引用させていただきます。

「・・・洞爺丸の遭難者が七重浜に漂着していると連絡があったのは、転覆30分後の午後11時15分であった。

・・・村の半鐘が鳴り響き・・・応じて飛び出した一青年は、嵐のなかを波打ち際まで走っていったとき、暗い砂浜で何十回となくつまずいた。

触れてみるとみんなまだ温かい人間である。

しかし、海から倒れそうになって上がってくる人の声や、海の中で助けを求めている声を聞くと、仮死状態にある人にまで手が回らなかった。

青年は語る『何度繰り返しても、あのとき仮死状態にあった人びとの手当が早くできていたら、助かった人がたくさんあったのにとすると、残念です。・・・』

・・・」

ここから、私の話に戻ります。 このお話を読ましてもらって、どうですか？

自分が、被害者になったとき、あるいは助けに行ったときを考えて下さい。

もし、同じ様なことが起きたら、・・・と考えると、おそろしい・・・おののく・・・今風にいうと、「超」自己嫌悪になりませんか？ 慄然(りつぜん)としますともいえそうです。。

ここで、助けに行ったこの一青年が悔やんでいたことが、絶対に起きないとはとてもいえないからです。 また繰り返すかもしれません。いや、程度は少し良くても、必ず繰り返しそうです。 では、私たちはどうすればよいのでしょうか。

そのことを少し、細かくお話ししたいと思います。

まず助ける側でも、二つの面というか立場があります。一つは、一般の人々、つまり皆様方の立場と、私たち、医療側・救援の専門的な立場からのお話です。

そして、しなければいけない基本となる内容は、二つを中心にお話しします。一つは、救命処置、そして、もう一つはその前に知っておいて欲しい「トリアージ」です。

ご存じですよ「トリアージ」も。もし、知らないときは、この教科書の終わりに書いてありますので、読んで知って、ください。



七重浜にある亡くなられた
方のための慰霊の碑

沈没した場所は、七重浜(ななえはま)沖合700mのところ、記念のブイが置かれています。

沈没が真夜中であつたため、泳げる人も真っ暗な中、反対側に泳いでしまつて多数溺れ死んだそうです。

七重浜に、泳ぎ着いた人たちは、できるだけ助けたかったですね。



災害医療テキストブッカー中学生にも考えてもらいたのでー(暫定版、平成17年度)「災害医療大系」第6巻 第3部
国立病院機構災害医療センター 原口義座、友保洋三、西 法正

5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風:続き

(4)私たちは、何をすべきか・・・何ができるか

①まず、一青年にあなたもなってください。

浜辺に、助けにでました。人がたくさん、真っ暗な浜辺に横たわっています。まだ生きているかもしれません。

[質問をします]

○あなたは、どうしますか？

○あなたは、どんな人から助けますか？

○他には、何を考えますか？ 考えるべきですか？

たぶん、全ての人をすぐに助けることはできそうにないでしょう・・・そんなに、スーパーマン・スーパーウーマンにはなれないでしょう。

その様な時として考えて下さい。

5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風

(4)私たちは、何をすべきか・・・何ができるか:続き

①まず、一青年にあなたもなってください。:続き

[回答] 私の考えです。

正しい回答は、無いかもしれません。

でも次のようなことは、いえそうです。

○倒れている人をみたら:トリアージを思い出して下さい。

そして、赤タグと思われる人を選んで下さい。

黒タグと思われる人は、残念ですが、早めにあきらめましょう。

○赤タグと思われる人には、呼吸を補助して、循環を維持することを、そして、応援をしっかりと集めましょう。

○他の注意点:安全性の確認と救援前の準備

安全性の確認と救援前の準備をあげたいと思います。

安全性の確認:災害の時は、応援・助けに行く人も大変危険な状態になります。

必ず、しっかりと確認して、できるだけ複数で、更に贅沢をいえば、安全を確認する係りを決めてください。

救援前の準備: 時間はかけられないでしょうが、ちょっとした準備でも有効です。

この場合は、最小限、懐中電灯、水(飲料水)、体にかけるもの(毛布類・・・)位は、すぐに持ち出せそうです。

まとめますと、みなさんも、「トリアージ」と「救急救命処置」が大事であることがわかんと思います。

5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風

・何ができるか

①まず、一青年にあなたもなってください。

②医療従事者は何ができるか、なにをすべきか・・・

それでは、医療従事者は、つまり、医師・看護師等、そして救援の専門家(警察・消防・自衛隊・あるいは役所の専門家)はどうすべきでしょうか？

次にお話しします。

ここでは、医師・看護師を中心にお話しします。

私は、全ての医師・看護師・そして医療に携わる全ての人は、災害時に医療ができるようになるべきと考えています。

まず、トリアージはもちろん、呼吸と循環を補助できる・・・つまり救命処置と、最小限の必須の救急医療ができなければいけません。

しかし、私たちも、いろいろな専門分野を持っていますから、全ての医師・看護師がいつもしているわけではないですが、でも、医療従事者は、災害時に皆さんの健康を守るプロになるべきと考えているということです。そのための研修会も繰り返し開いています。

でも、私たちのやることも基本的にはみなさんと一緒です。少し、専門的になる、あるいは、多くの人を指導・指揮できる様になるべきということです。

ここでは、あらすじのみを述べます。主に、順番に(時系列といいますが)説明します。

ー1)まず情報を集めて、被災した人の数・重症度(ひどさ)がどれくらいか、何人くらいがほっておくと死にそうか、を推定します(できるだけ、しっかりとしたデータが望ましいですが、余りこだわると遅れます。それはいけません)。

ー2)できるだけ早く、現場へ到着します。やはり、できるだけ医療用の、治療用の物品の準備体制を整えて行くのが理想ですが、最小限でもやむをえないかもしれません・・・情報を集めながら、現場に行くということにもなると思います、・・

ー3)着いたら、そこでトリアージと、赤タグの患者の救命処置を行います。

ー4)赤タグの患者さんを早急に医療施設に運びます。場合によっては、患者について行きます。

ー5)ちょっと余裕があるなら、現場で黄タグの患者へも最小限の処置を行います。

ー6)別個に、(別のチームで)全体の指揮・指導を行います。この際は、特に全体的にみるのが大切です。また、安全をしっかり確保することも必要です。無鉄砲な動きは、絶対にいけません。

ー7)一方、病院では、残っている医師・看護師・その他のスタッフで、多数の重症の患者さんをすぐに治療できるような体制をとります。

こうして少しでも亡くなる人を減らし、また重症な患者さんが早く元気になるようにします。

2006/4/5

20

6. まとめ

海と災害(医療)のお話を終わります。

少し、怖い話もあったと思いますが、楽しんでいただけたでしょうか？

それとも、何か、これからしたい、役に立ちたいと思うことがありましたでしょうか？

私たちは、医療側から、いつも災害をみています。しかし、私たちの力もまだまだ不十分です。災害の時には、特に、皆さんの協力が絶対的に必要です。

それには、「災害時に必要な知識、医療知識」も持って下さい。

「医療面からの幾つかの基本的な技術」も大切です。

でも、一番必要なことは、「こころ・・・やさしい温かい心」です。

「ギスギスした・・・」ことを感じるようなことが多いと思われる現在の状態・世の中ですが、「やさしさ」がなくては、いくら災害の勉強をしても「絵に描いた餅」になりかねません。

ぜひ、いつもそのようなことを忘れず、心がけていてほしいと思います。

災害医療テキストブック —中学生に：第2部終わり— (暫定版、平成17年度)

国立病院機構災害医療センター
原口義座、友保洋三、西 法正

平成17年3月

All rights reserved.

災害医療テキストブック —中学生に：第3部—

(暫定版、平成17年度)

国立病院機構災害医療センター

原口義座、友保洋三、西 法正

平成17年10月

All rights reserved.